

京極読書新聞 <第38号>

発行日 平成24年 10月 1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

京中・職場体験 無事終了！ 大変だけど楽しかった！

図書館は、職員体制や勤務時間が変則的なことが多い職場です。利用者にとっていちばん都合が良い時間に図書館を開けなければ意味のない仕事ですので、自然と変則的になるのです。まずは、朝の9時半から夜の6時15分まで、2日間、まるごと湧学館のすべての仕事に立ち向かった二人の頑張りを誉めたたいと思います。

態度、挨拶、言葉づかいとも、まったく問題ありませんでした。現代の図書館は、図書の貸出や書架の整頓などの基本的な仕事でも覚えなければならない決まり事は数多く、ほんとうに大変だったと思います。しかし、泣き言も言わず、なんとか二人で協力して仕事を完成させようとしている姿には好感が持てました。これからも頑張ってください。(新谷)



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

▲ 左:高島 欣也(たかばたけ きんや)くん
右:澤 晶弘(さわ まさひろ)くん

職場体験学習を終えて

京極中学校2年 澤 晶弘(さわ まさひろ)
高畠 欣也(たかばたけ きんや)

澤 :僕は、湧学館で職場体験をしました。1回目の時うまくできるか心配でした。仕事内容を聞いていたら、「なんだか 簡単そうだと」思っていたけど、実際やってみたら意外と大変で、とくに本を元に戻すことが難しかったです。2回目の時は、1回目とは違う事があって、インターネットなどを使ったりしました。ぼくは、湧学館を普段何気なく使っていたけど今度から大変な仕事だと、気にして使おうと思いました。

高畠 :私は、湧学館で職場体験をしました。初めて職場体験をするという日、緊張して、この持ち物で良いのかなとか、この時間で合っていたかな、とかを考えていました。実際は、自分が思っていた以上楽しかったです。ココを選んで良かったと思いました。でもやる事が結構多くて大変でした。本を探したり元の位置へ戻す作業は、時間がかかって、立ちっぱなしだから足が痛くなりました。カウンターの仕事は、すぐに慣れました。その中で難し

かった事は、ビデオを貸すときでした。借りる人の名前を書いたり、その時間を記録したり、素早くビデオをかけたり、戻したりなど、結構というか、かなり大変でした。もたもたして、お客を待たせている時は、職員の人にてつだってもらいました。他は、本の修理をしたり、展示図書のテーマ決めをしました。どれも大変ですが楽しかったです。

本の大切さを教えてもらい、私は以前より、もっと本の価値がわかりました。この二日間は、良いことをたくさん学びました。このことは、将来に役立てたいです。



京極中学校・出前図書館 「これからの私たちのエネルギー問題」

しばらくお休みしていた京極中学校の出前図書館「図書展示」を二人につくってもらいました。

選んだテーマは「これからの私たちのエネルギー問題」。福島第一原発の事故から一年半。

みんなで知恵を集めて考えなければならない問題です。

3ページ目は展示に使用した図書のリストです。



▲ 京極中学校での展示の様子。本を紹介するポップも二人が制作しました。

<第1部. 福島第一原発事故がひきおこしたもの>

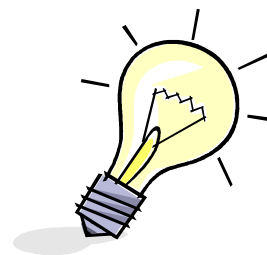
- 「いま原発で何が起きているのか」 北海道新聞社 2011年06月 543.5 イマ
 「いまこそ私は原発に反対します。」 日本ペンクラブ／編 平凡社 2012年03月 543.5 イマ
 「神様2011」 川上弘美／著 講談社 2011年09月 F カ
 「暗い夜、星を数えて」 彩瀬まる／著 新潮社 2012年02月 916 アヤ
 「原発難民日記」 秋山豊寛／著 岩波書店 2011年12月 916 アキ
 「ゴン太ごめんね、もう大丈夫だよ！」 山路徹と救出チーム／編 光文社 2011年07月 645.6 ゴン
 「さくら」 馬場国敏／作 金の星社 2011年12月 913 ハバ
 「3.11 (大震災・原発災害の記録)」 橋本紘二／著 農山漁村文化協会 2011年07月 369.3 ハシ
 「3.11 2 (復興への一年)」 橋本紘二／著 農山漁村文化協会 2012年02月 369.3 ハシ 2
 「世界が見た福島原発災害」 大沼安史／著 緑風出版 2011年06月 543.5 オオ
 「そこからすべては始まるのだから」 香山リカ／著 メディアファクトリー 2011年10月 369.3 カヤ
 「それでも三月は、また」 谷川俊太郎／著 講談社 2012年02月 918.6 ヨル
 「のこされた動物たち」 太田康介／著 飛鳥新社 2011年07月 645.6 オオ
 「裸のフクシマ」 たくきよしみつ／著 講談社 2011年10月 916 タク
 「春を恨んだりはいしない」 池沢夏樹／著 中央公論新社 2011年09月 369.3 イケ
 「フクシマ元年」 豊田直巳／著 毎日新聞社 2012年03月 369.3 トヨ
 「福島原発事故独立検証委員会調査・検証報告書」 福島原発事故独立検証委員会／編
 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2012年03月 543.5 フカ
 「福島 原発と人びと」 広河隆一／著 岩波書店 2011年08月 543.5 ヒロ
 「福島原発の闇」 堀江邦夫／文 朝日新聞出版 2011年08月 543.5 ホリ
 「僕のお父さんは東電の社員です」 毎日小学生新聞／編 現代書館 2011年11月 543.5 ホク
 「待ちつづける動物たち」 太田康介／著 飛鳥新社 2012年03月 645.6 オオ
 「私が愛した東京電力」 蓮池透／著 かもがわ出版 2011年09月 543.5 ハス

<第2部. 3・11以前の「原発」イメージ>

- 「核燃料サイクル」 藤家洋一／ほか著 ERC出版 2003年11月 539.4 フジ
 「危険な話」 広瀬隆／著 八月書館 1987年04月 543.5 ヒロ
 「『クリーン発電』がよくわかる本」 山本良一／監修 東京書籍 2005年12月 543 ク
 「『原子力』のいまがキチッとわかる本」 吉田八束／著 オーエス出版 2002年5月 543.5 ヨシ
 「『原発』革命」 古川和男／著 文芸春秋 2001年08月 543.5 フル
 「知っていますか？放射線の利用」 岩崎民子／著 丸善 2003年07月 539.6 イワ
 「『震度6強』が原発を襲った」 朝日新聞取材班／著 朝日新聞社 2007年10月 543.5 シン
 「手塚治虫全集 1 (鉄腕アトム)」 手塚治虫／著 金の星社 2008年01月 726.1 テス 1
 「はじめましてにほんちず」 高木実／著 平凡社 2006年12月 291 タカ
 「身近な放射線の知識」 佐々木康人／著 丸善 2006年03月 539.6 ササ

<第3部. これからのエネルギーは？>

- 「エネルギーのせつやく」 ジェン・グリーン／作 アーニ出版 2003年07月 501 グリ
 「環境問題を知りつくす本」 山本茂／監修 インデックス・コミュニケーション 2007年12月 519 カン
 「原発を考える50話」 西尾漢／著 岩波書店 2006年02月 543 ニシ
 「原発をつくった私が、原発に反対する理由」 菊地洋一／著 角川書店 2011年7月 543.5 キク
 「原発と地震」 新潟日報社特別取材班／著 講談社 2009年01月 543.5 ゲン
 「原発のウソ」 小出裕章／著 扶桑社 2011年06月 543.5 コイ
 「『資源』の本 1～5」 岩田一彦／監修 岩崎書店 2003年04月 334 シゲ 1～5
 「14歳からの原発問題」 雨宮処凛／著 河出書房新社 2011年09月 Y 543 アマ
 「ストップ原発 1～3」 大月書店 2011年12月 543 スト 1～3
 「太陽エネルギー利用技術」 日本太陽エネルギー学会／編 東京：オーム社 2006年08月 543.7 タイ
 「ナージャ希望の村」 本橋成一／文・写真 学研 2000年12月 369 モト
 「日本一わかりやすいエネルギー問題の教科書」 水野倫之／著 講談社 2012年02月 501 ミズ
 「光も風も水も氷も雪もパイオもみんな宝もの」 北海道自然エネルギー研究会／編著 東洋書店 2007年05月 501.6 ヒカ
 「風車は地球の未来を救えるか？」 樋口清美／著 アリス館 2003年03月 543 ヒク
 「風力発電の不都合な真実」 武田恵世／著 アットワークス 2011年03月 543.6 タケ
 「フクシマから学ぶ原発・放射能」 安斎育郎／監修 かもがわ出版 2012年02月 543 フク
 「目で見て分かる！放射能と原発」 沢田哲生／監修 双葉社 2012年04月 Y 539 メテ



余談「平清盛」(9)

<『平家物語』を読む会> 講師 村山 功一(むらやま・こういち)

「ドラマ・清盛」の登場人物で面白いのは“兎丸”と“鱸(すずき)丸”の二人です。兎丸は元海賊の首領(今でも?)で、太政大臣となった清盛にタメ口をきくという人物です。海賊討伐の際に敵味方を越えて意気投合し、以後清盛に協力するようになります。一方鱸丸は、貧しい漁師の子として登場します。

鱸丸を都に連れ帰った清盛は、鱸丸を家来にします。漁師の子を“武士”にするのも、かなり厳しい設定ですが、元服後の鱸丸に盛国という名を与えます。しかも、“平”という姓までも与え、一門に加えてしまうのはかなり乱暴な設定だと思います。兎丸は全くの架空の人物なので、タメ口をたたこうがケンカしようが一向にかまいません。ところが、平盛国は実在の人物です。もし、ドラマにおける「鱸丸の盛国」が実在の平盛国を指すならば、ちょっと飛躍し過ぎるのでは……と思います。実在の盛国は決して幼名鱸丸でも、漁師の子でもありません。それどころか、れっきとした平氏の一族なのです。彼の父については諸説ありますが、現在に伝えられる系図(1)や各種史料、さらに、有名な「平家納経」に名を連ねていることなどから、その実在が確かめられる人物です。

桓武平氏は早い段階で高棟王系の堂上(公家)平氏と、高望王系の地下(じげ)(2)平氏に分かれます。清盛の妻時子、弟時忠、妹滋子(後白河妃・建春門院)は堂上平氏。正度・正盛・忠盛・清盛と続く系統が地下平氏です。この系統の中で正盛系(伊勢平氏)が都に進出し力を持つようになると、正度の子孫の一部が伊勢平氏と主従関係を結ぶようになりました。これが平盛国の一族であり、平家貞の一族です。伊勢平氏を主としこれに仕える関係ですが、遡ればみな平正度を祖とする同族なのです。盛国一族と家貞一族は清盛の有力な側近として仕え、また、清盛死後も一門を支えて平家と運命を共にします。

盛国は保元2(1157)年に兵衛尉(ひょうえのじょう)に任官し、次いで検非違使左衛門尉(けびいしさえものじょう)を経

て、憲仁親王(のち高倉天皇)の立太子(3)に際して主馬首(しゅめのかみ)(4)に昇進し、以後主馬判官(しゅめのほうがん)(5)と称します。平家の家人(けにん)(6)の中では、家貞の一族と並び破格の出世です。

ドラマの作者藤本有紀さんは、このような出自と経歴をもつ平盛国をあえて貧しい漁師の子とし、鱸丸と名付けました。漁師の子らしく魚の名を取ったのでしょうか。いや、そんな安易なネーミングではなさそうです。そういえば古典『平家』には熊野詣の途中、清盛らの舟に鱸が飛び込んで来て、これを見た一同が平家繁栄の吉兆と喜ぶ話があります(巻一「鱸」)。これもヒントになっているのかも知れません。鱸はまた、コッパ→セイゴ→フツコ→スズキという具合に成長とともに呼び名を変える魚です。こういう魚を“出世魚”といいます。なるほど、そういうことだったんですね。貧しい漁師の子は成長して、平家の重臣主馬判官平盛国へと、出世魚さながらに大出世を遂げた訳です。あるいは、先の「鱸」に関連して、鱸丸が鱸の化身であることを匂わせているのかも知れません。

こう考えるととても面白いのですが、ただ、これほど出自がハッキリしている実在の人物を、このように“創作”してしまっているのかどうか。単なる“時代劇”と一線を画する(はずの)“歴史ドラマ”というジャンルを考える上で、興味深い問題でした。

[以下次号]

《語注》

- (1) 現在に伝えられる系図 …… ここでは「尊卑分脈」を指す。
- (2) 地下 …… 昇殿を許されない役人。位の低い役人。
- (3) 立太子 …… 公式に皇太子と定めること。
- (4) 主馬首 …… 東宮(皇太子の御所)の馬を管理する役所の長官。官制では六位相当官。
- (5) 主馬判官 …… 主馬首と検非違使尉を兼任する場合の呼び名。
- (6) 家人 …… 家来や家臣の中で、特に主人との結び付きが強く、累代の従属関係にある従者。

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

